

石野所長！

「目先の権利に囚われている」のは会社ですよ！

大二運・石野所長は、8月、9月と連続して個人名こそ出さないものの発生した事象からみて私たち東海労の取り組み、あるいは東海労組合員に対する誹謗・中傷を所内誌「轍」を活用して行ってきています。

まず8月号についてですが、題目を夏季輸送としそのくんだり「一部には残念にも目先の権利に囚われて、将来の繁栄を渴望しない視野の狭い者が不平不満を伝えていることを耳にすることもありますが、この局面を優位に進めるにはどうしても休日勤務等での皆さんの尽力を得て、…これはわたしたち会社発展を願う者、全員の未来のためであるはずで。」と「一方的な休日出勤」に反対する意見への批判を行っています。

この文からすると、目先の権利（石野所長の言う「権利」とは何かハッキリしません）に囚われて「休日勤務」に不平不満を言う者が、会社発展の障害となり社員全員の未来がなくなると言っているのも同然になります。

ちょっと待ってください！2003年品川駅開業後の旅客増を理由にして、2004年初めから始まった「一方的な休日出勤」に対し私たちは反対の声をあげてきました、現在、ユニオン、国労も「休日勤務」解消に向けて取り組んでいるのではないですか？私たち東海労だけが問題としているのではないのです。

健康を脅かし慢性化している問題を全社員がおかしいと感じているのです。「轍」にのせた「休日出勤」に対する石野所長の認識では乗務員の健康はさらに脅かされる事となってしまいます。

対航空機に対して列車増発を企業戦略とするなら必要な要員の確保が第一義ではないでしょうか。出来るだけ少ない要員で多くの列車を走らせ、いかに多くの利益を増やすのかが資本・会社の狙いなのです。そうした声を無視して8月号の「轍」では、「文句を言わずに働け」と所長が言っているのです。

石野所長！東海労、国労、ユニオンの組合掲示板をもっとよく読んで認識を改めてください！